

## カンボジアにおける透析液清浄化の現状と問題点

1)東京女子医科大学、2)日本血液浄化技術学会国際委員会、3)NPO 法人いつでもどこでも血液浄化インターナショナル

瀧澤亜由美 1)2)3)、兵藤透 3)、小久保謙一 2)、川西秀樹 3)、石森勇 1)、村上淳 1)、金子岩和 1)、峰島三千男 1)、花房規男 1)、土谷健 1)、新田孝作 1)

【目的】NPO 法人いつでもどこでも血液浄化インターナショナルと日本血液浄化技術学会の国際委員会が協働し、東南アジア諸国の透析施設において医療技術協力を実施している。今回、2018年8月に Cambodia Japan friendship Blood Purification Center を訪問し、透析装置全台にエンドトキシン捕捉フィルタ(ETRF)を設置した。また、現地スタッフへの ETRF 装着の効果と透析液清浄化の重要性への理解を深めるため、設置前後および RO 水の ET 値測定を実施したので報告する。

【施設概要】Cambodia Japan friendship Blood Purification Center は 2010 年にカンボジアのプノンペンにあるセンソク国際病院に設立された透析室である。病床数は 4 床であり、透析装置はすべて NIPRO 社製 SURDIAL である。

【方法】検体は各装置の透析装置出口側ラインおよび RO システムの行きラインと戻りラインより採取し、測定は和光純薬株式会社製トキシノメータミニにて実施した。

【結果】透析装置の測定結果は、ETRF 設置前で ET 値(EU/mL)が装置 1 で 3.109、装置 2 で 2.379、装置 3 で 2.712、装置 4 で 2.712 であった。設置後はすべて測定感度未満であった。RO システムでは行きライン、戻りライン共に ET 値は 0.066EU/mL であった。

【考察】Cambodia Japan friendship Blood Purification Center の透析関連液の清浄度は十分とは言えないが、透析液については ETRF を設置することで ET 値は低値となっている。今後は ETRF に頼るのではなく、透析液関連システム全体の管理レベルを向上させることで、生物学的汚染を低減すべきと考える。その第一歩として、RO 水や透析装置の ETRF 前後の ET 値や生菌数測定を現地スタッフと一緒に実施し、測定に対し興味を持ってもらうとともに、測定結果を示し、日本のガイドラインの基準と照らし合わせ説明することで、自施設の現状を把握してもらうなどし、現地スタッフの透析液清浄化への理解を高めていくことが重要と考える。